

天然唐松のことを「天唐(てんから)」といって貴重な資材となっています、清水高原の唐松はほとんどが人工林であるため現在ではあまり利用価値のないものとなってしまっている。

自宅の横に日当たり良好で育った大きな唐松がある、高さは25mを超えている、根元の太さは42cmと大木になった、仮に27mとすると、家の高さを測ると1階分として2.7mくらいですので10階分の高さになります。

唐松の成長は場所・土壌などによって度合いがことなると思われる、扉から和田峠のビーナスラインの唐松に比べ明らかに清水高原の唐松は成長している。本によれば



<唐松の木と自宅>



<唐松の年輪>

20-40mになり太さ1mに達するとある、まわりの木の年輪を調べて見ましたら約50年くらいになっていました、私が12歳くらいで昭和35年くらいの植林になりますが、管理組合の竹野入さんの話からしても大方あっていると思われる。

家のまわりの唐松は植林されたもので成長度合いがかなり違うことが分かりました、密度が濃い成長の遅い木が左の木で23cm×20cmで、更に未成熟なものでは20cm×20cm、18cm×18cmと更に細くなる。また、左の写真のように混み具合の方向により中心がずれてしまう。

下の写真は、間伐を行った後のもので真ん中に切株が見えるのが伐採された木であり上の年輪の木でもある、成長している部分は手前の方である、金属棒は4mの長さで縦横方向に配置した。伐採された木の右1mには20cmΦの木が伐採してあるにもかかわらずまだまだ混みあっているように見える。

清水高原の唐松の成長が今後どのように変わっていくかは手をかけ次第でかわるのか、人工林の木を売らない場合どのように処理していったらいいのか？唐松・赤松・栗・白樺などの大木の今後が大いに心配なこのごろです。

とりあえず森林の勉強をして必要な知識や情報を共有していく必要がある、ネットもいいが、この清水高原特有の環境にあった情報源を探すのも心配を軽減することとなるものと確信している。



<唐松林の密度>